



普及センターだより

特集 やましろのお茶

宇治田原町で集団茶園が完成

宇治田原町では、永年の念願だった集団茶園の造成が完了し、今春から入植者11名による農事組合法人「日本緑茶宇治田原」が、約15haの茶園で栽培をスタートしました。

地域の茶業を次代につなぐ基盤として、大きな期待が集まっています。普及センターでは早期の成園化に向けて、全面的に支援しています。



早期成園化に向けた作業を検討

田辺ナスの新規担い手を育成中

J A京都やましろ京田辺市茄子園芸部では、担い手を園芸部自らが育成確保するため、「田辺ナス農家養成塾」を開講し、今年はナス栽培を志す5名が、6月から週1回のペースで受講しています。

この塾では、ほ場での実習に重点を置き、部長の川嶋塾長を中心に農協と普及センター職員が定植から箱詰めまでの全作業を丁寧に指導し、農業経験がない方でも安心してナスの栽培・出荷技術を基本から習得できます。また、農地の相談等の塾修了後のサポートも準備しており、新規ナス栽培開始に向けてしっかり支援しています。



アグリビジネス創生塾生が開業プランを発表

女性起業家アグリビジネス創生塾では、農業ビジネスでの起業をめざす山城地域の女性を対象に、起業家育成講座(2年間20回)を昨年度から開いています。



9月28日には1期生の閉講式を迎え、受講生は2年間努力した成果を開発した商品やチラシ、POP等を見せながら発表しました。

農協観光とのタイアップで農作業体験の受入ビジネスを実現させた人、パンとお菓子の教室や受注販売を始める人、自宅のガレージを改造した加工施設で宅配弁当を始める人など、夢をカタチにした人もあります。

今後は、それぞれ受講生が夢のとびらを開けられるよう、普及センターとして個別支援を行っていきます。

精華町華やぎ観光農園が法人として出発

精華町で農業生産法人「華やぎ観光農園株式会社」の創立総会が9月8日に開催されました。この観光農園は遊休水田を活用して収益の高い農業を行い、農地を守り、担い手を育成すること、観光農業を通じて消費者への農業理解を深めることを目的としており、普及センターは町とともに支援してきました。

12名の社員がスイカや黒大豆枝豆のオーナー制、イチゴ狩り、さつまいも掘り等の観光事業、農産物や加工品の製造販売を引継ぎ、農作業ボランティアが活動を支えます。



これからの茶園管理 ～冬から春にかけて～

冬季から春先の気象条件が、茶芽の生育に大きく影響を及ぼします。これからの茶園管理は、気象に留意しながら、茶園の観察を十分に行い、適期作業に心掛けてください。

○施肥

春肥の施用は、有機質肥料を主体とし、2月上中旬から始めます。1回の窒素施用量は15kg程度とし、2週間おきに施用しましょう。

芽出し肥は、速効性肥料を用い、萌芽期頃までに施用しましょう。

○茶園の管理

本年のように、夏季干ばつ傾向の年には、秋芽が遅くまで軟弱に生育したり、著しく開花数が増える傾向があり、灰色かび病に感染しやすくなりますので注意が必要です。また、自然仕立て茶園では、凍害を受けた部分から灰色かび病に感染しやすいので、11月頃に摘心を行い、軟らかい部分を除くことで予防効果が高まります。

○病虫害防除

冬季から春先にかけては、最近発生が目立つ赤焼病やクワシロカイガラムシ、ミカントゲコナジラミ等の防除時期となります。

赤焼病は11月～4月まで発生し(発病適温15℃以下)、整枝後や強い風雨、降霜時に感染しますので、発病が予想される場合は早めに防除しましょう。晩秋期以降に、予防効果がある銅水和剤などを散布します。また、初発時の2月下旬頃には治療効果のある薬剤が有効です。

クワシロカイガラムシやミカントゲコナジラミ防除のために冬季(11～2月)にマシン油を散布すると赤焼病の発生を助長することがありますので、赤焼病の常発地や幼木園ではマシン油の使用は控えてください。



↑赤焼病の症状

高品質茶産地を大きくPR ～茶品評会審査結果～

今夏、京都府で開催された第63回関西茶品評会及び奈良県で開催された第64回全国茶品評会で、山城地域から出品された茶が、農林水産大臣賞・産地賞を受賞し、高品質な宇治茶産地をあらためて大きくPRしました。

☆関西茶品評会成績

農林水産大臣賞

普通煎茶	JA京都やましろ南山城村支店茶業部会 木野正男氏(南山城村)
玉露	京田辺玉露生産組合 出島藤司氏(京田辺市)
てん茶	木津川共同碾茶組合 菊岡祐一氏(城陽市)

産地賞受賞市町村

普通煎茶	南山城村
玉露	京田辺市
てん茶	城陽市

☆全国茶品評会成績

農林水産大臣賞

てん茶	農事組合法人 宇治碾茶組合 堀井信夫氏(宇治市)
-----	-----------------------------

産地賞受賞市町村

てん茶	宇治市
-----	-----

入賞された皆様
おめでとうございます

茶苗木の自給自足をめざして

府育成品種の苗木は、全国的には生産量が非常に少なく、入手が困難です。そのため、茶生産者に安定して府育成品種の苗木が供給されるように、普及センターでは苗木生産体制を構築する取組みを進めています。



京都府育成品種の紹介

これらの品種は、'さみどり'と比べ、初期生育に優れ、株張りが大きくなりやすいという特徴があります。

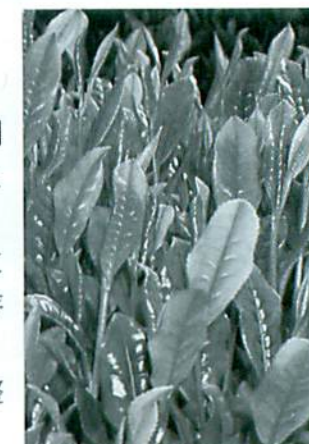
ほうしゅん 鳳春

玉露用品種として製茶品質に優れ、萌芽期や摘採のタイミングは、府内では'さえみどり'と同等となる早生品種です。機械摘みの仕立てでは新芽が小さくなりやすいので、母枝が細くなり始めたら深刈りや中切りにより更新します。



てんみよう 展茗

萌芽期、摘採期は'やぶきた'とほぼ同等ですが、製茶品質は格段に優れています。芽数が少ないので、芽数を確保する整枝を心がけます。てん茶としては高品質ですが、揉み茶では太い茎がやや目立ちます。



(※苗木の入手は、各JAへお問い合わせください。)

GAP手法の導入を推進中!!

最近、GAPという言葉を見たり聞いたりする機会が多くなってきており、多くの産地でGAP手法の導入が進んでいます。

「GAP」は新しい言葉ですので難しく感じますが、その多くは農業者の皆さんが日頃から行われている生産活動の反省を次期の生産に活かす姿勢そのものであり、これまでからもGAPの一部を実践されているともいえます。

茶園管理や製茶作業等の生産場面で、消費者から見て「大丈夫なの?」と思われるような作業、また、農業者自身が怪我をするような危険が、潜んでいるかもしれません。**生産工程全体を見直して**、そのような作業や危険(リスク)がないかを見直し、より良い生産に向けた対策を積み上げていくことがGAP手法の導入です。

GAP手法の導入は、「食品安全」「環境保全」「労働安全」「安定経営」というカテゴリ全てにおいて改善を図る有効な手法であり、結果として農家個々の経営のみならず産地が持続的な発展をする上でも、今後不可欠になると考えられます。

普及センターでは、関係団体とも連携して、管内の茶生産者の方を中心としてGAP手法の普及に取り組んでいきます。

小山忠成氏(指導農業者:宇治田原町)の話

消費者の皆さんの信頼に応える安心・安全なお茶を生産し、また、自分の経営を守るためにも「GAP」は大切な取組みです。私も、できることからやっていきたいと考えています。